

目 次

はじめに	1
本書の目的	1
本書の対象	1
本書の全体構成	2
本書の使い方	4
第1章 基 础 編	7
1.1 なぜ自治体で「市民参加生き物調査」に取り組むのか	9
1.2 都市の生物多様性の重要性	14
1.2.1 生物多様性とは	14
1.2.2 なぜ生物多様性が重要か	15
1.2.3 都市における生物多様性の確保の重要性	16
1.2.4 「都市の生物多様性指標」と本書の位置づけ	17
1.3 市民参加生き物調査の基本的な考え方	19
1.3.1 市民参加生き物調査とは	19
1.3.2 市民参加生き物調査の目的	20
1.3.3 市民参加生き物調査の特徴	22
第2章 実 践 編	23
2.1 地域に合った調査計画を立案する	25
2.1.1 地域の状況を把握する	26
2.1.2 目的を設定する	27
2.1.3 類型を選択する	34
2.1.4 体制を構築する	42
2.2 調査を実施する	54
2.2.1 調査対象地を設定する	54
2.2.2 調査対象種を設定する	60
2.2.3 調査スケジュールを設定する	68
2.2.4 調査手法を選定する	71
2.2.5 安全を管理する	78
2.2.6 データの信頼性を確保する	81
2.2.7 データを収集・蓄積し、とりまとめて公表する	83
2.3 調査を見直す	96
第3章 活 用 編	99
3.1 市民参加生き物調査の先に	101
3.2 緑地保全施策の全体像	103
3.3 緑地保全施策の実施手順	104
3.3.1 緑地保全施策の方針を明確化する	104

3.3.2 緑地保全施策を実施する.....	107
3.3.3 緑地保全施策の進捗状況を把握する	116
3.3.4 緑地保全施策を見直す.....	119
3.4 市民参加生き物調査を緑地保全施策に活用した事例.....	121
3.5 市民参加生き物調査への立ち返り	131
おわりに	133
資料 編	135
資料 1 データ収集を効率化するツール.....	137
資料 1.1 自治体における WebGIS の活用例：大阪府堺市.....	138
資料 1.2 WebGIS を用いた世界的な生き物情報の収集例：iNaturalist.....	140
資料 2 調査対象種の設定に関する参考情報.....	142
資料 2.1 調査対象種の設定に役立つ参考文献	142
資料 2.2 調査対象種を見直す手順と具体例	143
資料 3 表紙イラストの解説.....	149
資料 4 参考文献等	156
調査協力等	157

(注)掲載している写真や図表は、出典や提供者の明示のないものは全て執筆者に帰属するものです。

事例紹介の目次

事例紹介No.	自治体名	事例内容	掲載ページ
No.1	神奈川県横浜市	市民参加生き物調査を通じた意識啓発	p.29
No.2	東京都目黒区	生物調査の実施状況や動植物の情報を計画の進捗について点検・評価する指標に活用	p.30
No.3	神奈川県茅ヶ崎市	生物調査の結果をもとに保全上重要なエリアを抽出し、保全区域として指定	p.31
No.4	福岡県北九州市	継続調査を通じて希少種であるベッコウトンボを保全	p.32
No.5	兵庫県伊丹市	調査結果を踏まえて外来種を駆除	p.33
No.6	大阪府堺市	マス参加型による調査の実施	p.38
No.7	神奈川県相模原市	特定調査員型による調査の実施	p.39
No.8	福岡県北九州市	イベント型による調査の実施	p.40
No.9	東京都目黒区	マス参加型と特定調査員型の併用による調査の実施	p.41
No.10	大阪府堺市	多様な主体の参画により調査の実施体制を確立	p.47
No.11	神奈川県横浜市	小学校との連携による参加者の確保	p.50
No.12	千葉県印西市	メッシュで区切った調査とその結果の考察	p.57
No.13	神奈川県茅ヶ崎市	生態学的な観点からの調査対象種の設定	p.62
No.14	神奈川県川崎市	社会学的な観点に生態学的な観点を加味した調査対象種の設定	p.63
No.15	神奈川県横浜市	多くの市民が取り組みやすい簡易な記録用紙	p.76
No.16	神奈川県茅ヶ崎市	生物の確認位置を地図に書き込むより詳細な記録用紙	p.77
No.17	愛知県豊田市	ポストへの投函による調査結果の収集	p.85
No.18	神奈川県横浜市	市内で開催されるイベントで調査結果を紹介	p.95
No.19	神奈川県横浜市	調査方法の変更	p.97
No.20	神奈川県茅ヶ崎市	調査対象種の見直し	p.98
No.21	神奈川県茅ヶ崎市	指標種の確認地点をもとに市域の「多様性の高さ」を評価したマップを作成し、緑の基本計画に反映	p.109
No.22	埼玉県朝霞市	エコロジカルネットワークの形成に向けて生物調査データを活用し、緑地保全方針を明確化	p.110